

平成二十七年 一般入試問題

国語

(解答時間 五〇分)

(配点 一〇〇点)

〔注意事項〕

1. 問題用紙は開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は□〜□です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

国際主義(インターナシヨナリズム)や地域主義(リージョナリズム)は、国家間の協調を追求するものである。それに対して、国の枠組みを離れて市民や民間組織のあいだで共通の目標の実現に向けて協力したり、※ネーションとは異なるアイデンティティ(人種、宗教、性別、言語など)を共有する人々がともに行動したりする動きも、現代の世界では影響力を高めてきた。

そのような活動の背景にある思想は、グローバリズム(世界主義)あるいはトランスナシヨナリズムといわれている。(トランスという前置詞には越える、つなぐという二つの意味があり、そのまま日本語にすることは難しい。超国家主義という名称は通常、極端なナシヨナリズムのことを指すので適当ではない。本書では主として英語のままトランスナシヨナリズムという表現を使うことにする。)

(ア) グローバリズムというと、それはアメリカニズムと同じではないか、と考える読者がいるかもしれない。世界を支配する思想とかグローバル経済といった言葉が、米国の絶大な影響力を連想させるのは、それなりの理由がある。二十世紀は米国の世紀だとか、唯一の超大国としての米国だとかいう表現が伝えるものは、米国の軍事力、経済力、そして何よりも文化の力(いわゆるソフト・パワー)がどの国の<sup>①</sup>ツイズイも許さないとことだ。したがってグローバルなものであるものも、実際には米国の支配を広めていこうということではないのか、と。

しかし、第1章でも触れたように、そのような見方は国と国とのあいだの垣根が低くなっている現代では時代遅れのものである。米国を含めすべての国はグローバルにつながりあった世界に存在している。そのような世界にあっては、米国が世界全体をいろいろと動かしていると同時に、世界もまた米国に影響を与えているのである。A、米国自体がグローバル化しているわけで、それはとりもなおさず米国社会が世界の影響で刻々と変転していることを示している。

そのようにグローバル化しつつある諸国が目指す一つの目標が I であるとするれば、それは従来の国家単位の世界とは違うものを目指しているのだといえる。

グローバリズム、つまり、グローブ(地球)全体の繁栄を目標とする概念は、国益の追求を目指すナショナリズムの対極にある。地球という惑星を一つの単位として見るのだ。それは当然、そこに生息するすべての生き物の共生を求めることになり、環境保護運動へとつながるのだが、その場合は地球というよりは惑星(プラネット)と呼んだほうが適当かもしれない(実際、プラネタリアニズムという英語もある)。グローバリズムは国単位ではなく、全人類の平和や繁栄を求めるという意味合いを持つているので、世界主義という翻訳が適当であろう。

全人類の平和や繁栄を願うものは、いつの時代にも、そしてどの文化にも存在していた。キリスト教、イスラム、仏教、儒教など、およそ宗教と呼ばれるものは、万人にあてはまる教義を追求してきたし、いまもしている。その中心な関心事は、「人間とは何か」という問題である。

しかし、世界中で各種のつながりができると、「人間とは何か」という問題はかつてないほどの現実性を帯びてくるのである。グローバルな時代には、個々の国家や社会を離れた普遍的な「人間」をどのように把握し、全人類の相互関係をどのようにとらえたらよいのかという問題を避けて通ることはできない。

ナショナリズム全盛の時代には、(イ)人間といっても普遍的な存在ではなく、個別の国の国民としての意味が根本であり、ある国に生まれ、その国のために奉仕し、生まれたのと同じ国で人生を終わるといのが典型的な概念だった。国と個人との関係は永遠に続くものだとしていたのである。そのような見方をとれば、「どこに生まれようとすべての人間は同じだ」といった考えは切り捨てられかねない。(エ)

その一方で、ノンナショナル・アイデンティティ、すなわち性別、宗教、人種などを強調する見方をとると、こんどは人類の多様性が強調され、普遍的な人間という概念とはつながりにくかった。

B、キリスト教にもイスラムにも仏教その他の宗教にも、万人平等という教えは存在していた。(Ⅱ)ただ理念的にはそうでも、実際には自分とは異なった宗教を信ずるものを排斥したり、あるいは改宗させたりしようとする運動も長い間存在していた。(Ⅲ)

しかし、人類の持つこの共通性と多様性をどう結びつけて考えたらいのか、という根本的な問題に解答が与えられないうちに、二十世紀の悲劇が起きてしまった。(Ⅳ)とりわけ第二次大戦という、国家間、人種間、宗教間の対立、<sup>②</sup>ゾウオ、差別に始まって大殺戮に終わる、それまでの人類の文明を否定するような事態に至ってしまったのである。(Ⅴ)

だから、人間という存在はどの国に住んでいても、どのような宗教を信じていても、あるいは性別、年齢、人種などのかかる区別があっても、根本的にはすべて同じだという信念が世界各地で明確に意識されるようになったのは、第二次大戦以後のことである。人間性が否定されたかのような<sup>③</sup>ヤバン行為を経て、(ウ)ようやく「人間」が再発見されたのだ。

しかしそれだけではない。より根本的には、戦前から戦争の時代、そして戦後にかけて、かつてないほどのつながりが人々のあいだに生まれたという事実がある。

戦場や捕虜収容所、あるいは戦争裁判などをおしたつながりももちろんだが、数千万人におよぶ避難民、外国や海外植民地から引き揚げてくる人たち、さらには植民地解放後の人口移動などによって、実に多くの出会いが生じた。

そのような経験を通して、どの国、どの人間であらうと、同じ運命を共有しているのだという認識が生まれる。敵でも味方でも、人間はすべて人間なのであり、死ぬときには国籍などは関係ない。誰にとっても生命の尊重という原則は共通のものであり、その原則をもとにして相互に結びつきあうのが平和な世界の基軸なのだ。

C 平和な世界の構築はまずすべての人々の人間性を認め、つながりを密接にすることから始めなければならない。そのような考えが、一九四八年に国連総会で採択された「世界人権宣言」で具体的なものとなった。

人権(ヒューマン・ライツ)とは、すべての人がもっている権利であり、それは国籍や性別や人種などとは一切関係ない。

市民権よりも前に人権があり、国家よりも前に人類が存在するのだ、という考えである。そのような信条を国際社会が受け入れたのは画期的なことだった。

戦後、ドイツや日本において行われた連合国による裁判でも、「人間（ヒューマニティ）に対する罪」が戦争犯罪の一つとして定められていた。従来の国際法の対象は、ある国による侵略行為や戦時中の捕虜に対する虐待などだった。それが「人間に対する罪」という概念では、たとえばナチスドイツによるユダヤ人やロマ（いわゆるジプシー）の殺害行為は、被害者の国籍にかかわらず彼らの人間性を否定したのだとして、罪を問われることになったのである。

このような行為は平時にも発生しうるものだから、<sup>(エ)</sup>この新しい概念は人間観、そして世界観をも変えるほどの意味をもっていた。

人権を中心に見れば、真の世界平和はすべての人々が人間としての<sup>④</sup>ソングンを確保し、権利を保護されるまでは存在しない、ということになる。もちろんそのような世界は現実とはほど遠い。その前提となる人権を認めない国や宗派、思想も依然存在している。

それでも、第二次大戦前と比べて、一つの世界、一つの人類という概念は、はるかに多くの社会や地域に浸透してきた。これも現代世界の大きな流れである。

さらに注目されるべきなのは、人権宣言や一九四八年以降に国連で採択された各種の決議が示すように、すべての人が人間として尊重されるべきだという考えは、従来にも増して各種の人々のネットワークを促進するものだったということである。国家や民族や宗教などの相違にかかわらず、あらゆる人は接触し、交流し、新しいコミュニティを作る権利をもっている。

したがって人権の原則が意味するものは、人間同士の相違、差別、隔離、偏見ではなく、共通性、共同生活、協調である。つながりの歴史のなかでも、これほど強力な思想は他にないだろう。

人権の概念がより普遍的になるのは一九六〇年代になってからで、<sup>(オ)</sup> その背景には欧米諸国における公民権運動や、アジア・アフリカ諸国の<sup>(X)</sup> 台頭がある。

とくに米国における変化は著しかった。それまではアフリカ系、アジア系など「有色」(カラード)といわれた人たちに對し、さまざまな差別がなされ、南部諸州ではバスに乗るにもトイレを使うにも、白人とそれ以外の人たちは区別されていた。非ヨーロッパ地域からの移民も極端に制限されていたし、白人と有色人との結婚を法律で禁止する州すらあった。

これらの事例は明らかに II の精神に反していたにもかかわらず、米政府も一般市民の大部分も積極的に対応しようとしなかったのは、普遍的人権の意識がまだ社会に浸透していなかったこと、とくに白人の多くが黒人その他の有色人種と接触するのを避けていたことを物語っている。

D 一九六〇年代に入ると、大きな変化が見られるようになる。一つには、以前からあった公民権運動が、ケネディ、ジョンソンなどの民主党大統領の支持を得て力をつけたことがある。同時に、ベトナム反戦運動などが<sup>\*</sup> 鼓吹した「権力(パワー)を人民(ピープル)へ」というスローガンに見られるような、反体制運動が盛り上がったことも挙げられる。

そのような動きに<sup>⑤</sup> ショクハツされて、女性解放運動や「ブラック・パワー」運動が各地に広まっていくのである。「ピープル・パワー」とも呼ばれたように、すべてのアメリカ人が人種や性別にこだわりなく、たくさんのネットワークを作つてつながりあつていく。

もつとも、ここには米国の国家としての地政学的な判断もあつただろう。対ソ冷戦を有利にするためには、世界人口の四分の三以上を占めるアジア・アフリカなどの人たちの支持を得る必要があつたのも事実である。

だが、仮にそのような戦略的な思惑がなかったとしても、公民権運動の盛り上がりは見られたことだろう。というのも、有色人種や女性の解放運動が米国だけに限られたものではなく、諸外国でも学生、労働者、女性運動の指導者などによって強力に推進されていたからである。世界的な反体制運動、当時の言葉でいえば「カウンターカルチャー」(反体制的文化)

運動が沸き上がっていたのである。

こうした運動の意味するものは、グローバル・コネクション、すなわち世界規模でのつながりにほかならなかった。

(入江昭 『歴史家が見る現代世界』による)

(注)

※ 「ネーション」： 国民。国家。

※ 「鼓吹」： 盛んに主張し、他者を共鳴させようとする事。

問一 傍線部①～⑤について、カタカナを漢字で答えなさい。

問二 空欄A～Dに入る語として最も適当なものを、次の1～6の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。(但し、同じ数字は複数使用しない事。)

1 したがって      2 あるいは      3 もちろん      4 ところで      5 ところが      6 つまり

問三 二重傍線部(X)「台頭」の語句の意味として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 勢力を得てくること。
- 2 巻き返してくること。
- 3 動きが表面化すること。
- 4 発展してくること。
- 5 影響が及ぶこと。

問四 傍線部(ア)「グローバリズム」とあるが、筆者が主張する現代のグローバリズムとはどのようなものか。最も適当なものを、次の1〜5の中から一つ選びなさい。

- 1 ネーションとは異なるアイデンティティを共有する人々がともに行動しながら、国家間の協調を追求するものである。
- 2 国益の追求を目指すナショナリズムとは対極にあり、国単位の世界とは違う全人類の平和や繁栄を求めるものである。
- 3 二十世紀の超大国であった米国が軍事力、経済力、文化の力を利用して現代でも引き続き支配を広めているものである。
- 4 国の枠組みを離れて、市民や民間組織の間で共通の目標の実現に向けて協力し、国と国との垣根を低くするものである。
- 5 地球という惑星を一つの単位として見つめ、そこに生息するすべての生き物の共生のために環境保護をするものである。

問五 空欄Ⅰ・Ⅱに入る最も適当な語句を、次の1〜5の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |   |          |         |        |         |          |
|---|----------|---------|--------|---------|----------|
| Ⅰ | 「 1 国際主義 | 2 地域主義  | 3 世界主義 | 4 超国家主義 | 5 社会主義   |
| Ⅱ | 「 1 人権宣言 | 2 公民権運動 | 3 世界平和 | 4 民主党   | 5 女性解放運動 |



問六 傍線部(イ)「人間といっても普遍的な存在ではなく」とあるが、ここでいう「普遍的な存在」とはどのようなことか。

最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 生まれた国で人生を終わる存在であること。
- 2 すべての人間は平等の存在であること。
- 3 人類が多様性を持った存在であること。
- 4 自分と異なつた宗教を信ずる存在であること。
- 5 かつてないほどのつながりを持った存在であること。

問七 本文には次の文が抜けている。本文中の(Ⅰ)～(Ⅴ)より入るべき箇所を一つ選びなさい。

世界人類の共通性と多様性というテーマは、決して最近になって現れたものではなく、古代から存在していたのである。

問八 傍線部(ウ)「ようやく「人間」が再発見されたのだ」とあるが、その原因として最も適当なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 キリスト教、イスラム、仏教、儒教などの宗教は、自分と異なった宗教を信ずる者を否定したが、実は教義において共通性があると気づいたこと。
- 2 戦時中の戦場や捕虜収容所、あるいは戦争後の戦争裁判などの場面を通して、戦争における加害者と被害者とのあいだで多くの争いが生じたこと。
- 3 とりわけ第二次大戦時において国家間、人種間、宗教間対立、差別等によって、人類の文明や人間性を否定するような大殺戮が行われたこと。
- 4 グローバルな時代には、人類の多様性を認めるとともに、ある国で生まれた人間であるという意識や自国の文化を守ろうという姿勢も高まったこと。
- 5 戦争において数千万におよぶ避難民、外国や海外植民地から引き揚げてくる人たち、さらには植民地解放後の人口移動によって国際社会になったこと。

問九 傍線部(エ)「この新しい概念」の内容として最も適当なものを、次の1〜5の中から一つ選びなさい。

- 1 宗教、国籍が違ってても、全人類が願う平和や繁栄を踏まえたら、差別、隔離、偏見を無くし、共通性、多様性を見出し、殺害を避けねばならないということ。
- 2 宗教、国籍、人種とは無関係に、人権は全ての人が守られるべき権利であり、殺害行為などによる人間性の否定はあつてはならないということ。
- 3 宗教や国籍の相違や勢力的な差があつたとしても、真の世界平和を目指す国際社会にあつては、殺害は人間として行つてはならないということ。
- 4 宗教や国籍の相違や勢力的な差があつたとしても、反体制運動が起り、今まで認められていなかったことも解放される可能性があるので殺害はあつてはならないということ。
- 5 宗教、国籍、人種の違いによる戦争は、いつ形勢逆転するか解らないので、侵略行為や虐待以上に殺害行為はあつてはならないということ。

問十 傍線部(オ)「その背景」の内容としてふさわしくないものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 公民権運動が一九六〇年代に入ると、ケネディ、ジョンソンなどの民主党大統領の支持を得て力をつけたという大きな変化が見られたこと。
- 2 公民権運動が、ケネディ、ジョンソンなどの民主党大統領の支持を得て勢力を増すと同時に、ベトナム反戦運動などが盛り上がったこと。
- 3 公民権運動が民主党大統領の支持を得て力を増すことに加え、反体制運動が盛り上がり、その影響で女性解放運動が各地に広まったこと。
- 4 公民権運動が民主党大統領の支持を得て力を増すことに加え、反体制運動が盛り上がり、その影響で有色人種解放運動が各地に広まったこと。
- 5 公民権運動が民主党大統領の支持を得て力を増すことに加え、米国が対ソ冷戦を有利にするための地政学的な判断により、反体制運動を各地に広めたこと。

二 次の文を読んで後の問いに答えなさい。

(ア) これからの日本語にとって重要と思われるものは、私の場合、「敬語への自覚」である。別に年寄りを尊敬しろというわけではない。今の日本で「誰を尊敬すべきか」ということになったら、そんな社会的基準はないも同然で、それは個人的な価値基準にゆだねられている。しかし、人と人との間には、親疎の距離が常に存在している。人は生きている限り、「初対面の人」と出会う可能性を常に持っている。どのような背景を持っているか分からない人間と予備知識なしに出会って、それでいきなり親密な関係を成り立たせられるわけでもない。ストーカーや通り魔殺人のようなものが平気で横行してしまうということは、それをする人間に「他人との距離」という発想がないからで、そのようなつまらない不幸を防ぐためにも、「他人との間の距離」を再確認するべきだろうと思ひ、そのために敬語の存在を自覚するべきだと思うのである。

敬語というものは、社会的な地位——すなわち力関係だけによって発生するものではない。それは、正体の知れない人間との間に距離を設定してしまうものでもある。だから、仲間同士の会話が弾んでいるところに入り込み、丁寧口調で話を続けていけば、「(A) 水くさいやつ」とも思われる。積極的に親近感を成り立たせたいのなら、相手と同じ言語を使えばいい。しかし、相手と交わりたくなかったら、終始距離を取って、敬語で通す。「丁寧」はまだ一通りだが、そこに尊敬の度合いが大きくなればなるほど、相手との距離は大きくなる。「あなたとはあまり接近したくない」という意味が、相手の立場を過剰なほどに尊重する敬語だというのが、人間関係を重要視する日本語の素晴らしい (B) パラドックスだと思う。敬語の重要性は、「他者との距離」という点で、再確認されるべきだろう。

言葉というものは、自分とその外側との境に存在するものである。自分の内部だけに留まるものではないし、自分を置き去りにして、外部で独り立ちするものでもない。言葉が自分の内側に傾けば、それはモノローグになる。モノローグがある種の共通性を獲得して、限られた範囲で流通してしまえば、それは (イ) 方言になる。方言は、地域的なモノローグな

のだ。「方言の重要性」が今の時代に言われたりもするのは、自分をより濃厚かつ明確に語るための言葉が必要とされているからだろう。方言に対する共通語は、「他者との交流」という必要から生まれた言葉である。だからその重点は、自分の外側＝他者にある。他者との関係に比重を置く言語によって自分を語るということは、自分を希薄にすることでもある。だからこそ、自分の所属が明白であるような地域的モノローグ——方言によって、自分をより明確濃厚に語る必然も生まれる。「方言の復権」と言っても、限られた範囲でしか流通しない言葉を、共通語にするわけにもいかない。それぞれに違う共通語を話すというのは、矛盾というものだ。

普通、人は「渋谷界隈の若者言葉」を方言の一種だと思わない。方言というのは田舎にあつて、都会にあるものではないという思い込みがあるからなのだが、ある限られた範囲内ではか流通しないという点において、若者言葉は方言の一種である。そして、その流通が限られた範囲内であるからこそ、ここでは親疎の別がなくなってしまう。方言を通用させることが出来る安心感と同じものは、実は日本社会のどこにでもある。若者言葉もその一つで、「その言葉を共有させられるからこそ仲間だ」という安心感によって、この特殊な言葉は成り立っている。そして、その(ウ)言葉の畏わも、また同じところにある。「その言葉を共有させられるからこそ友達だ」という安心感によって成り立っている以上、その言葉を使う人間たちの間に、意志の疎通を図らなければならない「他者」は存在しない以上、言葉はほんざいになる。わざわざ、第三者に対して「説明する」という行為が不要になる。

言葉は、その機能の多くを「説明する」というところに割く。すべてが同質の人間たちによって成り立っている言葉は、「他者」を欠き、それゆえに「他者への説明」も欠く。つまり、言葉としての機能を大きく劣化させてしまうということである。それが、他者の訪れることが稀な閉鎖的村落であるならともかく、大都會の真ん中で「他者への説明」という機能を欠いた言葉が公然と流通しているのは、あまりにも不思議であり、不自然である。なぜそこで、特殊な方言が必要となるのか。それはつまり、より濃厚かつ明確に自分自身を語りたいという欲求があるからだろう。(省略)

かつての日本人は、方言で育ち、その後に通語をマスターした。それが逆になって、存在を主張すべき自己ばかりが肥大した。説明を要される他者の存在が希薄になって、日本語は大きく劣化した。日本の社会も。それを修復するのなら、敬語という他者への認識への自覚が必要だろうと思われるのである。

(橋本治 「敬語への自覚、他者への自覚」より)

問一 傍線部A「水くさい」・B「パラドックス」の意味を次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

A 水くさい

- 1 他人行儀なこと
- 2 冷静なこと
- 3 心が清らかで澄んでいること
- 4 決断力が弱いこと
- 5 態度や行動が浮ついていること

B パラドックス

- 1 逆説
- 2 浄化
- 3 破局
- 4 類推
- 5 機知

問二 傍線部(A)「これからの日本語にとって重要と思われるものは、私の場合、「敬語への自覚」である」と筆者が考える理由を、三十字以内で解答欄にある言葉の後に続けて答えなさい。(句読点も字数として数える)

問三 傍線部(イ)「方言」について、その性格と方言が必要とされる理由を簡潔にまとめ、四十字以内で答えなさい。

(句読点も字数として数える)

問四 傍線部(ウ)「言葉の畏」とあるが、どういうことか、その説明として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選  
びなさい。

- 1 もともと日本語の特色は言葉で多くを語らず曖昧なままにしておくので、方言という特殊な言語を話す必要を認めなくなる事。
- 2 同じ通じ合う言葉によって安心感が得られると、日常的な言葉は少なく、自分を語る思想的な言葉を多く話すようになる事。
- 3 他者への説明を重視する流行語が都会の中で流通し、人々はそのことに何の異和感も覚えなくなり、流行語をしゃべり出す事。
- 4 通じ合う言葉で安心感が得られると、意思の疎通を図る必要がなく、他者の存在は消え、言葉に対して無頓着になる事。
- 5 言葉を豊かにしたいと考えるようになると、他者への説明を言葉でするよりも、自分への告白を好むようになる事。



三 本文を読んで、後の問いに答えなさい。

淨妙寺は、東三条のおとどの、大臣になりたまひて、御慶よろこびに木幡こはたにまゐりたまへりし御供ごともに、入道殿具ぐしたてまつらせたまひて御覽ごらんするに、多くの先祖の御骨おはするに、鐘の声聞きたまはぬ、いと憂うれきことなり、わが身思ふさまになりたらば三昧堂さんまいだう建てむと、御心のうちに思おもひ召めし企くはてたりける、とこそうけたまはれ。

昔も、かかりけること多くはべりけるなかに、極楽寺・法性寺ぞいみじくはべるや。御年なんども大人おとなびさせたまはぬにだにも思おもひ召めしよるらむほど、なべてならずおほえはべるに、いづれの御時とはたしかにえ聞きはべらず、ただ深草の御ほどにやなどぞ思ひやりはべる。芹河せりかはの行幸せしめたまひけるに、昭宣公せうせんこう童殿上どうだんじやうにてつかうまつらせたまへりけるに、帝みかど、琴きんをあそばしける。この琴弾く人は、別の爪つくりて、指にさし入れてぞ、弾くことにてはべりし。さて持たせたまひたりけるを、落としおはしまして、大事に思おもひ召めしけれど、また作らせたまふべきやうもなかりければ、さるべきにてぞ思おもひ召めしよりけむ、大人おとなしき人々にも仰おほせられずて、幼くおはします君にしも、「求めてまゐれ」と仰おほせられければ、御馬をうち返しておはしましけれど、いづくをはかりともいかでかは尋ねさせたまはむ。見つけてまゐらせざらむことといみじく思おもひ召めしければ、「Aこれ求め出でたらむ所には一伽藍がらんを建てむ」と、願ねがひ思おもひして、求めたまひけるに、出できたる所ぞかし、極楽寺は。B御心に、いかでか思おもひ召めしよらせたまひけむ。さるべきにて御爪も落ち、幼くおはします人にも仰おほせられけるにこそははべりけむ。

さて、Bやむごとくならせたまひて、御堂みだう建てさせにおはします御車に、真信公はいと小さくて具したてまつりたまへりけるに、法性寺の前わたりたまふとて、「父こそ。こここそ、よき堂所なんめれ。ここに建てさせたまへかし」と聞こえさせたまひけるに、いかに見てかくいふらむと思して、さし出でて御覽ごらんすれば、まことにいとよく見えければ、C目にいかでかく見つらむ、さるべきにこそあらめ」と思おもひ召めして、「げにいとよき所なめり。汝まじが堂を建てよ。

C  
我はしかじかのことのありしかば、そこに建てむずるぞ」と申させたまひける。幼き御目に、いかでよき所と御覽じけむ。さるべくおはします人は幼くより瑞相ずいさうどものおはしますにこそ。さて、法性寺は建てさせたまひしなり

〔大鏡〕より

(注)

御慶びに木幡にまゐりたまへし御供に……そのお礼参りとして木幡(墓所)へお参りになつた時のお供に具したてまつらせたまひて……ご同行申し上げなさつて

なべてならずおぼえはべる……並み一通りでないと思われまます

行幸……天皇がお出かけになること

童殿上……貴族の子供が幼い時に、作法見習いとして、宮中(天皇のいる場所)にお仕えすること

さるべき……そうなるべき因縁(運命)

いづくをはかりとも……どこを目当てとして

法性寺の前わたりたまふとて……今では法性寺が建っている土地の前をお通りになろうとする、その時

さし出でて……お車から外にお出になつて

汝……おまえ

さるべくおはします人は……栄華を手中になされるほどのお方は

瑞相……吉兆(おめでたいしるし)

※ 登場人物の系図

藤原基経(昭宣公)——忠平(貞信公)——師輔——兼家(東三条のおとど)——道長(入道殿)

問一 浄妙寺の建立者を(ア)、極楽寺の建立者を(イ)、法性寺の建立者を(ウ)とした時、組み合わせとして正しいものを、次の1～6の中から一つ選びなさい。

- |   |         |       |       |   |
|---|---------|-------|-------|---|
| 1 | — (ア)兼家 | (イ)道長 | (ウ)基経 | — |
| 2 | — (ア)兼家 | (イ)基経 | (ウ)道長 | — |
| 3 | — (ア)道長 | (イ)基経 | (ウ)忠平 | — |
| 4 | — (ア)道長 | (イ)忠平 | (ウ)基経 | — |
| 5 | — (ア)天皇 | (イ)道長 | (ウ)忠平 | — |
| 6 | — (ア)天皇 | (イ)忠平 | (ウ)道長 | — |

問二 傍線部A「これ」の指示する内容として、正しいものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 琴            2 爪            3 馬            4 車            5 鐘

問三 本文の二カ所の空欄には同じ語句が入る。入るべき語句として、最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 憂き            2 大人しき            3 幼き            4 多き            5 良き

問四 傍線部B「やむごとなく」の意味として、最も適切なものを、次の1～6の中から一つ選びなさい。

- 1 いやしい身分に
- 2 高貴な身分に
- 3 病気がちな身体に
- 4 丈夫な身体に
- 5 好奇心旺盛な性格に
- 6 忍耐強い性格に

問五 傍線部C「我はしかじかのことのありしかば、そこに建てむずるぞ」の内容として、最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 私はしっかりした地盤の別の土地に立派な寺を建てるので、そこにはおまえ独自の寺を建てなさい。
- 2 私はすでに仏様からそれ相当の恩恵を受けているので、まだ未熟なおまえがそこに寺を建てなさい。
- 3 私はもう財産も権力もないので、おまえが成人したら、私の代わりに立派な寺をそこに建てなさい。
- 4 私はしかるべき人材と技術で別の寺を建てるので、おまえは私より立派な寺をその隣に建てなさい。
- 5 私は昔の因縁により別の場所に寺を建てることになっているので、おまえがそこに寺を建てなさい。

問六 『大鏡』と同じジャンルの作品を、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 源氏物語
- 2 栄花物語
- 3 土佐日記
- 4 枕草子
- 5 平家物語

平成二十七年 一般入試問題 国語 解答用紙

一

④		①	
ソング	ソング	ツイズイ	ツイズイ
⑤		②	
シヨクハツ	シヨクハツ	ゾウオ	ゾウオ
		③	
		ヤバン	

受験番号		
氏名		

得点
----

問一

問二

問三

問五

問七

問九

問一

問二

問三

問四

問一

問四

二

A		I		A
B	問十	II	問四	B
				C
				D
			問六	

三

				敬語への自覚は、	

問五	問二
問六	問三

# 平成27年度 一般入試問題

## 数 学

(解答時間 50分)

(配 点 100点)

### [注 意 事 項]

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は①～⑥です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

**1**

次の式を簡単にしなさい。

$$(1) \quad (-2)^3 \times \left\{ 0.5^2 - \frac{1}{3} \div \left( \frac{1}{3} - 3 \right) \right\}^2$$

$$(2) \quad \left( -\frac{2}{3}xy^2 \right)^3 \div \left( -\frac{3}{2}x^3y \right) \div \left( -\frac{4}{3}xy^2 \right)^2$$

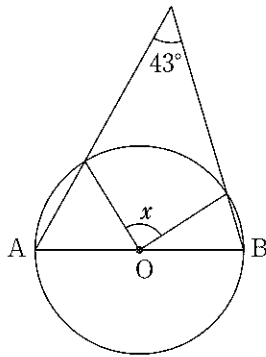
$$(3) \quad \frac{\sqrt{24} - 2}{\sqrt{2}} - \frac{(3 - \sqrt{6})^2}{\sqrt{3}}$$

$$(4) \quad \frac{a+b}{2} - \frac{a+2b}{3} - \frac{a-b}{5}$$

**2**

次の問いに答えなさい。

- (1)  $x^2 + y^2 - z^2 - 2xy + 2z - 1$  を因数分解しなさい。
- (2) 40 と 45 と 150 の最小公倍数を求めなさい。
- (3)  $\frac{1}{a} + \frac{3}{b} = \frac{1}{2}$  を満たすような1けたの自然数  $a, b$  の組をすべて求めなさい。
- (4) 下の図において、 $\angle x$  の大きさを求めなさい。ただし、線分 AB は円 O の直径とする。





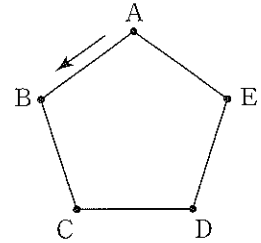
**3**

鉛筆とノートを売っている店において、先月の販売数は鉛筆が80本、ノートが120冊で、ノートの売り上げ金額は鉛筆の売り上げ金額より11200円多かった。今月は先月と比べて、鉛筆の販売数が35%増加し、ノートの販売数が20%減少した。その結果、鉛筆とノートの売り上げ金額の合計は先月より10%減少した。このとき、鉛筆1本とノート1冊の値段をそれぞれ求めなさい。

4

太郎君と次郎君の2人がさいころを振って、次の規則(ア)~(ウ)に従って、正五角形 ABCDE の頂点から頂点へ駒を動かすとき、次の問いに答えなさい。

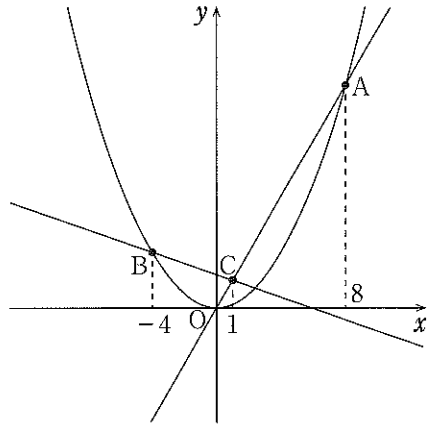
- (ア) はじめに頂点 A に駒がある。
- (イ) 太郎君がさいころを振って、出た目の数だけ反時計回り(矢印の向き)に動かし、頂点に置く。
- (ウ) 次郎君がさいころを振って、太郎君が置いた位置から、出た目の数だけ反時計回りに動かし、頂点に置く。



- (1) 太郎君が駒を頂点 B に置く確率を求めなさい。
- (2) 次郎君が駒を頂点 C に置く確率を求めなさい。
- (3) 太郎君も次郎君も駒を頂点 A に置かない確率を求めなさい。

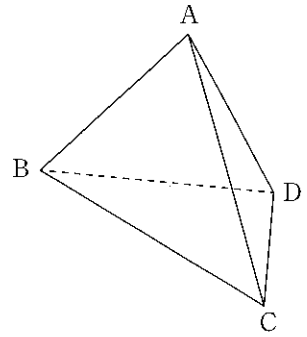
5

$a$  を定数とすると、図のように2つの関数  $y=ax^2$ ……①,  $y=2x$ ……②のグラフがある。点  $A$  は関数①, ②の交点で、 $A$  の  $x$  座標は8である。点  $B$  は関数①のグラフ上にあり、 $B$  の  $x$  座標は-4である。また、点  $C$  は点  $B$  を通る直線と関数②のグラフとの交点で、 $C$  の  $x$  座標は1である。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1)  $a$  の値を求めなさい。
- (2) 直線  $BC$  の方程式を求めなさい。
- (3) 線分  $BC$  上に2点  $B, C$  とは異なる点  $P$  をとり、 $P$  から  $x$  軸に引いた垂線と  $x$  軸との交点を  $Q$  とする。 $\triangle BPQ$  の面積が  $\frac{21}{5}$  のとき、点  $Q$  の座標を求めなさい。

- 6** 図のような,  $AB=AC=3$ ,  $BC=4$ ,  $DA=DB=DC=\sqrt{5}$  である四面体 ABCD において, 頂点 A から  $\triangle BCD$  へ下ろした垂線の長さを求めなさい。



平成27年度 一般入試問題

数学 解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

1

(1)	(2)	(3)	(4)

2

(1)	(2)
(3)	(4)
$(a, b) =$	$x =$ °

※小計A

--

3

鉛筆	円, ノート	円
----	--------	---

4

(1)	(2)	(3)

※小計B

--

5

(1)	(2)	(3)
$a =$		$Q( \quad , \quad )$

6

--

※小計C

--

※合計

--

受験番号	氏 名

# 平成27年度 一般入試問題

## 英 語

(解答時間 50分)

(配 点 100点)

### [注 意 事 項]

1. 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 解答用紙に受験番号(算用数字)と氏名を記入すること。
3. 問題番号は①～⑤です。最初に確認すること。
4. 解答はすべて、解答用紙の解答欄に記入すること。
5. 試験終了の合図とともに解答をやめて筆記用具を置き、監督者の指示に従うこと。
6. 問題用紙は各自持ち帰ること。

東京農業大学第一高等学校

1 次の問い(問1～2)に答えなさい。

問1 下線部の発音が他と異なるものを、(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. (ア) change      (イ) lady      (ウ) state      (エ) imagine

2. (ア) driven      (イ) blind      (ウ) climate      (エ) prize

3. (ア) start      (イ) bark      (ウ) warm      (エ) hard

問2 単語のアクセント(強勢)の位置が第1音節にあるものを、(ア)～(ケ)から3つ選び、記号で答えなさい。

(ア) in-tro-duce      (イ) ma-gi-cian      (ウ) u-ni-form

(エ) con-ven-ience      (オ) med-i-cine      (カ) ad-van-tage

(キ) en-er-gy      (ク) i-de-a      (ケ) con-ti-nue

2 次の英文の( )に当てはまるものを(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. A : You ( ) go out tonight.

B : Why not?

A : Because the storm is coming.

(ア) don't have better                      (イ) have not better

(ウ) had not better                      (エ) had better not

2. A : This shirt suits you well.

B : Um... I don't like this color. Show me ( ), please.

A : OK. Just a moment, please.

(ア) one                                      (イ) another

(ウ) other                                      (エ) it

3. A : What is that lake? It's so large.

B : That is Lake Kasumigaura. It is the second ( ) lake in Japan.

(ア) large                                      (イ) larger

(ウ) largest                                      (エ) much larger



4. A : Good morning, Mom. Where is Dad?

B : He's ( ) to the station. He had to catch the first train to attend the morning meeting.

(ア) gone

(イ) went

(ウ) been

(エ) being

5. A : Would you mind ( ) here for a while?

B : I'm fine! Please take your time.

(ア) wait

(イ) to wait

(ウ) waiting

(エ) waited

6. A : Where should I put these clothes?

B : Here is a box ( ).

(ア) to put them in

(イ) putting them in

(ウ) to put in them

(エ) putting in them

7. A : How ( ) did you go to the sea this summer?

B : Only once. I was busy studying for the exam.

(ア) soon

(イ) long

(ウ) often

(エ) many

8. A : You said you had a lot of homework. So, you're not coming to the party, are you?

B : (        ). I've already finished it.

(ア) Yes, I am.

(イ) No, I am.

(ウ) Yes, I'm not.

(エ) No, I'm not.

9. A : I hear you are going to see the movie with your friend at 6 o'clock.

B : Yes. So I have to finish my work (        ) 5 o'clock.

(ア) till

(イ) by

(ウ) since

(エ) in

10. A : Who is the man in this picture?

B : He is Michael Jackson. He is known (        ) his beautiful voice.

(ア) for

(イ) as

(ウ) to

(エ) by

3 次の英文の( )内の語(句)を並べかえて、意味の通る英文を完成させなさい。ただし、文頭に来るべき語も小文字にしてあります。

1. A : ( speak / like / I / you / would / to ) a little more slowly.  
B : OK. I think I spoke too fast.
  
2. A : Have you got a new bicycle?  
B : No, not yet. ( is / I / the one / expensive / want / very ).  
I still don't have enough money.
  
3. A : ( know / by / the girl / singing / do / the tree / you )?  
B : Yes. She is Mr. Smith's daughter, Kate.
  
4. A : Excuse me, but I want to go to ABC hospital. Please ( it / tell / is / me / where ).  
B : Sure. I'll show you. Come with me.

4 次の各問いに答えなさい。

A) 次の各英文の下線部の意味としてふさわしいものを1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. George tried to stop smoking a few times, but he always started again in a few months. This time, his doctor told him to stop for good.

(ア) carefully

(イ) forever

(ウ) sincerely

(エ) suddenly

2. That's a very interesting picture on the wall. It looks like a picture I saw in the museum. A famous artist painted it. Is this the same artist? It is! Then this picture is very valuable. If you sell it, you will get a lot of money!

(ア) beautiful

(イ) expensive

(ウ) various

(エ) vivid

B) 次の対話文を読んで、下の問いに対する答えの空所に入るものを (ア) ~ (エ) から 1 つ選び、記号で答えなさい。

John : I heard someone say she's from Italy.

Corey : Italy! She doesn't look like she's from Italy.

John : How do you know? Have you ever been there?

Corey : No, but she looks ...

John : She's very good-looking.

Corey : She sure is.

John : Let's talk to her.

Corey : Are you kidding? She won't want to talk to us!

John : She may want to meet some second-year students.

Corey : You think so?

John : Yeah, and we'd better get over there fast before some other guy does.

Corey : Too late. Look, she's talking to Jack Smith.

Question : Who are John and Corey talking about?

Answer : They are talking about ( ) invited to the party.

(ア) a second-year student

(イ) a new student

(ウ) Jack Smith

(エ) John's girlfriend

- C) 次の英文の空所に当てはまる語(句)を(ア)～(ウ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、大文字で始まる語も小文字になっています。  
\*印は注があることを示します。

Studies show that people in big cars \*tend to drive too close to small cars. Some people think this is ( 1 ) drivers of big cars feel safe and protected. \*In comparison, small cars don't seem to be a \*threat to them on the road. So the large-car drivers will take more chances and \*crowd other cars on the road. But they cause accidents if they lose control of their cars. ( 2 ), small cars can stop faster than large cars. So a large car that is driving too closely tends to crash into a small car that has to stop suddenly. ( 3 ), small cars are hit from behind 18 percent more often than large cars.

(注) tend…～する傾向がある  
threat…脅威

In comparison…それに対し  
crowd…押し出す

- (ア) as a result  
(イ) because  
(ウ) for example

D) 次の文章の空所に当てはまる英文を(ア)～(オ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。\*印は注があることを示します。

Robots once lived only in books and movies. Today they are real. In industries they do many jobs in the workplace. They make \*vehicles. They put machines together.

[ 1 ]. They can work day and night. They can work in conditions that humans cannot put up with. For example, they can work where it is very hot or noisy.

[ 2 ]. They are not always similar to people. They are built to do particular jobs. So they are given the shape that is most suitable for the job.

[ 3 ]. Especially, they need a “brain.” This brain is a computer. Most robots also have at least one arm. This \*enables them to do such “human” jobs as building cars.

(注) vehicle…乗り物      enable…(人に)～することを可能にさせる

- (ア) Real robots don't often look like ones in books and films
- (イ) Robots can work without human control
- (ウ) Robots don't get tired
- (エ) Robots have some human features
- (オ) Robots have the same shapes

E) 次の文章の空所に、(ア)～(エ)の英文を文意が通るように並べかえて、記号で答えなさい。\*印は注があることを示します。

Venus and Serena Williams are the youngest of five daughters in the Williams family. They were born in 1980 and 1982. By the age of four, they were already playing tennis. They practiced with their father in their hometown of \*Compton, California.  They should play in adult tournaments. He also decided to send the girls to work with a tennis teacher in Florida. This was the beginning of their tennis career.

(注) Compton…コンプトン(アメリカの都市名)

(ア) Then, in 1991, their father made two important decisions.

(イ) When they were still very young, Venus and Serena began to play in tennis tournaments.

(ウ) He decided that his daughters should not play in junior tournaments.

(エ) They played in and won many junior tournaments in southern California.



- 5 次の英文を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。\*印は注があることを示します。

We all have heard the expression : “*Remember to stop and smell the roses.*” But, do we really take time out of our busy lives to notice the world around us? We are often caught up in our busy schedules and the next meeting so we don’t realize there are other people nearby.

I am not always a good driver, especially when I am driving on California’s heavy traffic busy streets. A short time ago, however, I saw an event that changed my way of life.

I was driving to a business meeting and, as usual, I was planning in my mind what I was going to say. I came to a very busy \*intersection where the traffic signal had just turned red. “All right,” I thought to myself, “I can drive faster than anyone else.”

I was ready to go when suddenly my mind was struck by a sight that I have never forgotten. A young \*couple, both blind, was walking arm-in-arm across this busy intersection with cars running by in every direction. The man was holding the hand of a little boy, while the woman was hugging a baby to her chest. Each of them had a white stick and they were searching for \*small bumps to guide them across the intersection.

At once I understood. They were both blind parents. That is one of the most frightening handicaps. “Wouldn’t it be terrible to be blind?” I thought. My thought quickly returned to the real world by the shock when I saw that the couple was not walking in the \*crosswalk! They were heading toward the middle of the intersection. Without realizing the danger, they were walking into the path of \*oncoming cars. I was worried because I didn’t know if the other drivers understood what was happening.

As I watched from the front line of traffic, I saw a \*miracle before my

eyes. Every car in every direction came to a stop suddenly. I never heard the noisy \*brakes or even the car horns. No one even called, "Get out of the way!" Everything became silent. In that moment, time seemed to stop for this family.

As I was amazed, I looked at the cars around me to make sure that we were all seeing the same thing. I noticed that everyone's attention was also fixed on the couple. Suddenly the driver to my right reacted. Getting his head out of his car, he cried, "To your right. To your right!" Other people followed, shouting, "To your right!"

The couple adjusted their course as they followed the guide voices. Trusting their white sticks and the calls from some good citizens, they reached the other side of the road. As they arrived at the side of the road, one thing struck me — they were still arm-in-arm.

I was then surprised to see their expressions on their faces that made me judge that they had no idea what was really going on around them. From the sighs by everyone stopped at that intersection I quickly understood that the drivers \*were also relieved.

As I looked into the cars around me, the driver on my right was shouting, "Did you see that?" The driver to the left of me was saying, "I can't believe it!" I think all of us were deeply moved by what we had just seen. Here were human beings stepping outside of themselves for a moment to help four people in need.

I have looked back on this situation many times since it happened and have learned a powerful lesson from it. It is : "Slow down and smell the roses." (Something I had not always done up until then.) Take time to look around and really see what is going on in front of you right now. Do this and you will realize that this moment is all there is, more importantly, this moment is all that you have to make a difference in life.

注)

intersection…交差点

couple…カップル

small bumps…点字ブロック

crosswalk…横断歩道

oncoming…走行中の

miracle…奇跡

brake…ブレーキ

were relieved…ほっとしていた

問1 次の表は、本文の内容を時間順に配列したものです。(1)～(4)に当てはまる英文を下の(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1)
(2)
I found that the parents were both handicapped.
(3)
(4)

- (ア) I saw young parents who took their children and they were crossing the road in front of me.
- (イ) I stopped my car at the busy intersection because the traffic signal was red.
- (ウ) The parents were not walking on the right way in the crosswalk.
- (エ) The parents were able to reach the other side of the road safely.

問2 次の質問(1～3)に対する答えとしてふさわしいものを(ア)～(エ)から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1. What handicap did the parents have?

- (ア) They could not see anything.
- (イ) They could not walk on the road by themselves.
- (ウ) They had to hold a white stick when they went out.
- (エ) They had two children.

2. What was the miracle?

- (ア) All cars stopped at once and they made loud noise.
- (イ) All cars were running by but none of them hit the parents who were crossing the road.
- (ウ) Drivers got angry and shouted at the parents who were walking on the road.
- (エ) Every driver stopped his or her car and let the parents reach the other side of the road.

3. How did the parents walk across the road?

- (ア) They were taken to the other side of the road by the writer.
- (イ) They crossed the road arm-in-arm with kind drivers.
- (ウ) They found bumps on the road by themselves.
- (エ) They were guided by the voices of the drivers.

問3 次の英文の1と2の空所に入るふさわしいものを、下の(ア)~(エ)の中から2つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を2度使うことはできない。

1. I was surprised because ( ).
2. I was worried if ( ).

- (ア) I saw every driver stop at the intersection
- (イ) the other drivers understood that the parents were handicapped
- (ウ) the parents could cross the busy road or not
- (エ) every driver looked at the same scene

問4 次の英文は本文をまとめたものです。(1)と(2)の空所に入る適切なものを、(ア)~(エ)の中から1つ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、選択肢の英文はすべて小文字になっています。

The title of this story is “( 1 )”. This means that you should slow down your way of living. The writer of this story wants to tell the readers one thing he has in his mind. If you have time and room to relax yourself, then you may not ( 2 ).

- (ア) find the truth of your life
- (イ) get energy by smelling flowers
- (ウ) miss something wonderful around you
- (エ) take a moment to really see

平成27年度 一般入試

英語 解答用紙

〈注〉※欄には記入しないこと。

1 問1 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

※

問2 \_\_\_\_\_

2 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_

5 \_\_\_\_\_ 6 \_\_\_\_\_ 7 \_\_\_\_\_ 8 \_\_\_\_\_

※

9 \_\_\_\_\_ 10 \_\_\_\_\_

3 1 \_\_\_\_\_ a little more slowly.

2 \_\_\_\_\_

3 \_\_\_\_\_ ?

※

4 Please \_\_\_\_\_

4 A 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ B \_\_\_\_\_

C 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

D 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

※

E \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_ → \_\_\_\_\_

5 問1 (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_

問2 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_

問3 1 \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_

※

問4 1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_

受験番号				氏 名	